

## 勿凝学問 55

「プリクラ世代」「失われた世代」と呼ばれている諸君、政治家の振り付け師でもどうかな  
安倍流は君ら若者にウケないらしいとの大手広告会社調査

2006年11月30日 ver.2

2006年11月29日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

「浅はかなコンサルタント会社」512頁、「世論政治」242、463頁 『医療年金問題の考え方 再分配政策の政治経済学』の索引にある見出しである。何人かのひとに言われたけど、ご指摘の通り、この本、索引作りでけっこう遊んでみた。

ところで、こういう情報が世間に流出して大丈夫なのか、と思える記事があった 『朝日新聞』2006年11月25日朝刊の「安倍流 ウケぬ若者層 進む離反自民、参院選へ危機感」である。といっても、この記事、自民党広報戦略担当の世耕弘成首相補佐官 ボストン大学企業広報論修士・NTT 広報部報道担当課長の経歴の持ち主 のホームページで大々的に紹介されていたので、こうした情報を流すことは彼らの戦略の一環であるのだろう。

記事によれば、

- 自民党は、「広報戦略チーム」というのを10月に立ち上げたいらしい。
- そこでは、本当かどうか分からないが、「来夏参院選に向けていかに若者層を獲得するかに照準を合わせて」いるとのこと。
- 世論調査を依頼された大手広告会社の報告書のなかでは、君ら20代を含む、20~30代が「プリクラ世代」と呼ばれているとのこと。プリクラ世代の特徴は「モバイル好きでファッションはストリート系。ムードに流されやすく自分の生活や趣味を大事にする」らしい 本当か？
- また、自民党の広報戦略チームは、君らを「プリクラ世代」のみならず、ニートやフリーターが多いから「失われた世代」と呼んでいるようでもある。
- プリクラ世代、失われた世代は、「教育改革と経済成長路線を2枚看板にしつつある安倍政権のアジェンダ(政策目標)」を支持していないらしく、「企業よりの成長戦略では若者層の支持は期待できない」と、広報戦略チームに思わせているとのこと。
- そして広報戦略チームは、「若者に売れる商品たる政策を吟味」しているらしい。

商学部の学生諸君、マーケティングを勉強すると政治家にもなれるよっというのは、冗談半分以上の話ではあるが、今日のセイジは、この程度の世論調査が、けっこう意味をもってしまうのも事実みたいである。こういう傾向を、わたくしは「世論政治」 新聞の世論調査の結果だけをながめて筋も通らぬ方針が決められる政治 と名づけてからかったのが、「勿凝学問 13 今の野党って、楽な仕事なのか、それとも辛くせつない仕事なのか」〔 巻所収〕である。

昨年 9 月 11 日の郵政解散総選挙の際に、「年金で勝負すべし」と民主党にすすめたらしい浅はかなコンサルタント会社は、民主党を壊滅的な状態に陥れたけれども、自民党の広報戦略チームと彼らが用いている大手広告会社は、安倍内閣をどこに導くことになるのやら。彼らが言うには、「来夏参院選に向けて」いかに君ら「プリクラ世代」「失われた世代」を「獲得するかに照準を合わせて」いるらしいから、いっそ、政治家の振り付け師でも気取ってみてはどうだろうかね ということきくよ、きっと。

でもまあ、「望ましく価値ある商品」の開発よりも、とにかく「売れる商品」をやっきになって探ろうとする彼ら「広報戦略チーム」のお仕事は、商学部の教員としていうには若干憚られるけれども、ママゴトのようにみえなくはない。

最後に、マーケティングで良い本は何かありますかと学生に問われたときに、ついつい答えてしまう本を・・・。

- ジョン・スポールストラ(2000)『[エスキモーに氷を売る 魅力のない商品を、いかにセールスするか](#)』きこ書房
- 国友隆一(2004)『[おばあちゃんに水着を売る方法](#)』PHP研究所

それと最近では、次の映画もおすすめかな。

- [サンキュー・スモーキング](#)

#### 参考資料

「[安倍流、ウケぬ若者層 改憲より年金に関心 進む離反、自民は参院選へ危機感](#)」

『朝日新聞』2006年11月25日1面

衆院補選と知事選を3勝1敗で切り抜け、順調な滑り出しに見える安倍政権だが、隠れた弱点がある。昨秋の郵政選挙で小泉圧勝の原動力となった20～30代の若者層の離反がそれだ。自民党の広報戦略チームもその層を「プリクラ世代」などと名付けてひそかにリサーチを進めるが、もう一つの壁にぶちあたった。長期不況の就職難でニートやフリー

<sup>1</sup> とはいえ、今日、政治家を志す者は、同じく慶應商学部のゼミのなかでも、「[交遊抄 40 年前のマジック](#)」に書いてあるようなゼミで「ミニスカートを日本で売る戦略」を学んだ方が、僕のゼミを選ぶよりも、大成するらしい。是非は抜きにして、最近のセイジ家の言動をながめていると、さもおりなんと思わせるものはある。

ターが多いこの「失われた世代」の関心は「改憲や教育改革より年金や景気」だという。つまり、政権が進める政策の方向性と微妙にずれているのだ。(石松恒)

福島知事選に敗れ、世論調査で安倍内閣の支持率が急落した直後の今月14日。自民党本部に集まった「広報戦略チーム」(座長・中川秀直幹事長)は重い雰囲気にも包まれた。「郵政造反組問題が効いている」。支持率急落について中川幹事長が復党問題に言及すると、出席者の一人は「小泉政権に比べ改革イメージが後退している。それが無党派や若者の安倍離れにつながっている」と指摘した。

政権発足に合わせ、世耕弘成首相補佐官や片山さつき党広報局長らが10月に立ち上げたこのチームは、来夏参院選に向けいかに若者層を獲得するかに照準を合わせていた。大手広告会社に依頼した世論調査と分析によると、以下のような結果が出ていたからだ。

(1) 政権末期の小泉内閣への世代別支持率は、「Hanako世代」(40代前半)など他世代が30%前後なのに比べ、20代が中心の「プリクラ世代」が52%で突出していた。

(2) プリクラ世代の特徴は「モバイル好きでファッションはストリート系。ムードに流されやすく自分の生活や趣味を大事にする」。

(3) その上の団塊ジュニア世代(30~35歳)の特徴は「目標や目的意識が明確。社会問題に関心はあるが、同時に自分らしさも追求したい」。

(4) この二つの世代は、憲法改正や教育改革には関心が薄く、景気対策や年金問題など身近な争点の方に反応する。

教育改革と経済成長路線を二枚看板にしつつある安倍政権のアジェンダ(政策目標)設定が、こと若者層対策ではミスマッチになりかねないのだ。チームのメンバーの一人は言う。

「メッセージが弱い首相のあいまい路線、やらせ質問や教育問題での後手の対応、そして復党問題。若者層を離反させることばかりだ。企業寄りの成長戦略では若者層の支持は期待できない」

その不安は19日の沖縄知事選で勝った後も消えない。チームは年明けから本格化する参院選のマニフェストづくりにも参画する。世論調査と民間企業のマーケティング手法を駆使して世代や性別ごとに政策の感応度を測り、いわば「若者に売れる商品」たる政策を吟味するという。

格差是正を争点化しようとする民主党も若者層に視線を注ぐ。松本剛明政調会長は22日の記者会見で「社会保障に対する信頼の回復は、高齢者に限らず、実質的に年金を負担する若い人にとっても大きな問題。非正規雇用も大きなテーマになっていく」。若者層の獲得合戦が触媒となって2大政党の政策論争に影響が出てくるかもしれない。

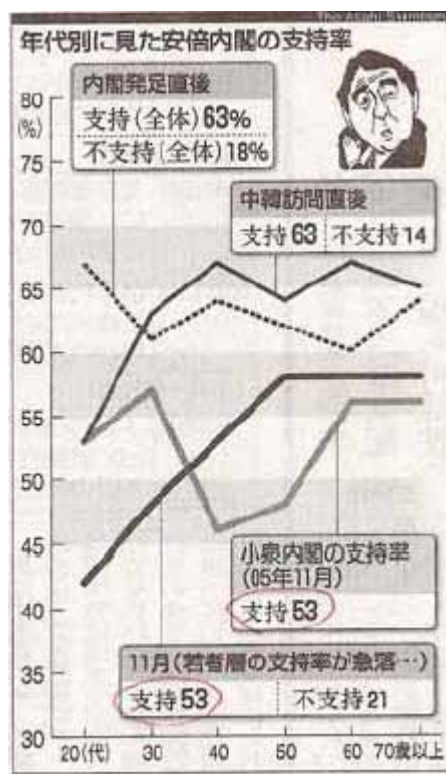
(3面に続く)

安倍内閣、あいまいさ弱点 「判断保留層」が焦点 朝日新聞社世論調査

(1面から続く)

朝日新聞社は安倍内閣について、(1)9月末の発足直後(2)10月上旬の首相の中韓訪問直後(3)11月中旬調査の3回、支持率を調べた。63%の支持率は中韓訪問直後も同率だったが、11月調査で53%に下がった。支持率は高いとはいえ、支持構造の中身をみれば、若者・無党派層の離反に加え、首相の政治姿勢の「あいまいさ」への冷やかな視線など政権の弱点がみえてくる。

安倍内閣の年代別支持率をみると、発足時は各年代から満遍なく支持されていたが、中韓訪問後に20代の支持が低下。11月調査では30、40代の支持も下落、50代以上が支持を底支えする構図に変化した。



小泉内閣は最後まで若い世代を引き付けた。象徴的なのが安倍内閣と同じ支持率53%の郵政総選挙後の昨年11月調査。20代、30代の支持率が高齢者層の支持率と並び立つV字型で全体を底上げする状況が浮かぶ。若者層への浸透度がいまひとつの現状が続けば、安倍内閣は高齢者が中核の旧来的な「自民型内閣」になりかねない。しかも無党派層の内閣支持率も47.46.33%と落ち込んだ。小泉内閣は自民支持層の平均支持率が80%で、無党派層の平均支持率も36%と、自民党内閣としては異例の高さだった。

安倍内閣の支持低落の要因として見え隠れするのは首相の政治的メッセージのあいまいさだ。11月調査では、安倍氏が政治的な信念や考えを「あいまいにしている」が55%で、「きちんと説明している」の31%を大きく上回った。「あいまい」は20代~40代では60%を超え、無党派層でも60%近くに達する。

「あいまい」と答えた人は、内閣支持率が43%と全体(53%)を下回る。近年の選

拳の帰趨（きすう）を決める「党首力」の要因のひとつであるメッセージの発信力に疑問符がつけられているのだろう。

支持・不支持の判断を保留した「その他・答えない」が26%と多いのも安倍内閣の特徴だ。自民党の支持率（39 42 38%）も民主党（14 14 14%）もともに横ばいのなか、小泉支持から離れたが政党支持を鮮明にしない「判断保留層」を2大政党のどちらがつかむかで参院選の勝者が決まりそうだ。（吉田貴文）

参考資料2 (を、2006年11月30日に挿入して ver.2 とする)

締切は12月6日とのこと 「プリクラ世代」「失われた世代」の女性たち、お忘れなく。  
それにしても・・・なんと。

AM 11-29

## 女性・無党派つかめ

民主党は28日、来年の参院選に向け、女性の支持率アップや無党派層取り込みに効果的な選挙対策を打ち出す「戦略特命チーム」(仮称)を発足させることを決めた。テレビコマースの企画案の公募も始めた。

特命チームは菅直人代表代行が中心。懸案である女性の

### 戦略特命チーム発足へ

支持率の低さの原因を解明し対策を練るほか、昨年の衆院選で小泉前首相にお株を奪われた無党派層対策に取り組む。世論調査の分析や有識者の意見を踏まえ、支持回復を目指す。CM公募の締め切りは12月6日。問い合わせは党本部広報委員会(03・3595・9927)へ。